

学校名	新座市立第三中学校
実施日	令和6年1月19日

評価項目「組織運営」

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
4	学校は、働き方改革を進めるため、校務分掌や教育課程等を適宜見直し、教職員の意識を高めるよう組織的に取り組んでいる。	B	働き方改革の具現化を目指し、ICTの効果的な活用や前年度3学期から試行した週28時間、下校時刻の変更と、学校行事や教育課程を刷新しているが、校務分掌の偏りが依然として発生している。さらに合理的なしくみを研究し、教職員の負担軽減をさらに進めたい。	B	・部活動の地域移行についてはまだかかるということなど、大きな変更を感じていないという点では今後考えていかなければいけない。昨年度末に決まってしまう内容は本年度変更は難しかった。そういった点では、勤務時間外勤務の教員もまだいる。 ・部活動には積極的に参加し、ある程度の成績を納めているが、半面土・日の活動があり、教職員の働き方改革からは、逆行している。 ・45時間を超えないことを考えると、一日2時間を超えないことになる。退勤時間を考え、部活動の終わりを逆算すると良いのでは。また、行事の精選をしていく必要もある。

評価項目「学力向上」

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
7	学校は、児童生徒が学習内容の理解を深めることができるよう、指導と評価の一体化を重視した授業を展開している。(ジャンプの課題の探求)	B	学びの共同体の導入により、真正の学びに近づいている。一方、4人グループ、教師が指示しない授業になかなか慣れることのできない教員もいる。各学年で生徒の自発的な授業改善の取組が展開され、よりよい学びを自分たちの手で実現しようという気運が高まっている。	B	・中間テストがなくなったことに対する検証は、もう少し長い目で見てほしい。ただ、単元テストにすることで、日々の授業をがんばれることはよい。子供たちの単元テストの重みを感じてもらえればと思います。

評価項目「豊かな心の育成」

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
11	学校は、児童生徒一人一人がこの特性を認め合って学校生活を送ることができる環境を整備している。	A	個の特性を教職員だけでなくクラスや部活動の集団がある程度理解し、100%ではないが特性に配慮した会話、声かけ、行動をしようとしている。一部、自己の特性を認めず(しばしば保護者)トラブルの頻発を解決できないまま生活を続けている生徒がいる。教育相談部を中心に課題に対する手立てをチームで考えている。	A	・先生方の関りがとてもよい。一生懸命取り組んでくれる。 ・たくさん子供たちをほめてもらいたい。

評価項目「健康・体力の向上」

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
14	学校は、体育や部活動・休み時間などを通じて、児童生徒が意欲的に運動に親しむような取組を行い、体力向上に努めている。	A	埼玉県や本校の体力の課題を意識しながら、規律正しい中にも学びの共同体に基づいた体育授業を展開している。昼休みの校庭遊びは多くの生徒が活発に活動している。多くの部が部活動に意欲的に取り組み、県、関東、全国へと駒を進め、市中体連年間総合得点では女子優勝、男子3位となった。	A	・先生方は本当に頑張ってくれています。部活動に対して、子供たちも一生懸命取り組んでいる。孫を通してとてもよい話を聞くことができ、ありがたい。
15	学校は、事故や不審者の侵入等の緊急事態発生時に適切に対応できるよう、危機管理マニュアル等を作成し、迅速に対応できる体制を整えている。	A	危機管理マニュアルを年度当初だけでなく途中でも見直し、事故防止、不審者対応等の危機管理意識をすべての教職員が持てることを目指している。	B	・水害に対しての意識も高く持っていただきたい。防犯カメラの設置場所の変更をしてほしい。 ・学校の避難所開設の種類などを地域の方にアナウンスをする必要がある。 ・校内の誤作動に対する対応を考えていかなければならない。訓練の仕方を変えていく等。 ・天災が少ないので、対応の仕方学ぶのは難しい。(他人事) ・教職員の中からも不安の声があるのであればB評価がよいのではないかと見直しをして行く。

評価項目「保護者・地域との連携協力」

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
17	学校は、学校だよりやホームページなどで、教育活動の様子や成果・課題などについて定期的に情報提供している。	A	システムがC4thに移行され、H&S(ホーム&スクール)での配信や欠席連絡が効率よくできるようになった。学校だより、学年通信、学級通信をタイムリーに発行し教育活動の周知に努めている。学校ホームページの更新はほぼ毎日、閲覧数は毎日トップ10を維持している。	A	・HPを見ると学校の様子がよくわかる。 ・教頭先生が更新していることが多いので、ほかの先生も更新できるともつよい。